日本質的心理学会 研究交流委員会 主催
東京大学ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙCOEﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ「死生学の展開と組織化」協賛

傷つきを語ることの意味と聴くという経験

質的心理学における『語り』研究の地平

外傷体験や疾患をもつ人びとが、その経験を語ることは、どのような意味があり、またそれを聴くということは、いかなる体験なのでしょうか。さまざまな暴力被害者やマイノリティに関する研究と支援実践をお持ちの宮地尚子氏（一橋大学）と小西聖子氏（武蔵野大学）から、傷つきそのものの意味、「当事者」と「支援者」のポジショナリティの問題、傷つきを語ることが誰にとってどのような意味をなすのか、などについてお話しいただきます。

【日時】 2010年12月4日（土）13：30～16：30（13：00開場）
【場所】 東京大学 本郷キャンパス 法文2号館2階 2番大教室
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_02_j.html
【参加費】 無料
【申込み】 下記申込みフォームにて受け付けます。定員（100名）になり次第、締め切ります。
https://ssl.formman.com/form/pc/VXe35rnCCAKWZJDC/

【内容】
＜問題提起＞
徳田治子（企画者・高千穂大学）
質的心理学における『語り』研究の地平：トラウマ・ナラティブを聴くという経験をめぐって

＜講演＞
宮地尚子氏（一橋大学）　**トラウマの語り～『環状島』その後**
小西聖子氏（武蔵野大学）**トラウマを語り、聴くことの意味**

＜対談＞
宮地尚子氏・小西聖子氏　〔聴き手：野坂祐子・徳田治子〕

総合司会　山崎浩司（東京大学）
企画代表　野坂祐子（大阪教育大学）

【問合せ】 野坂祐子（大阪教育大学）　nosaka〔アットマーク〕cc.osaka-kyoiku.ac.jp
山崎浩司（東京大学）　uc4dals〔アットマーク〕gmail.com